

第1期

青森市中心市街地活性化基本計画
最終フォローアップ【概要版】

平成24年6月

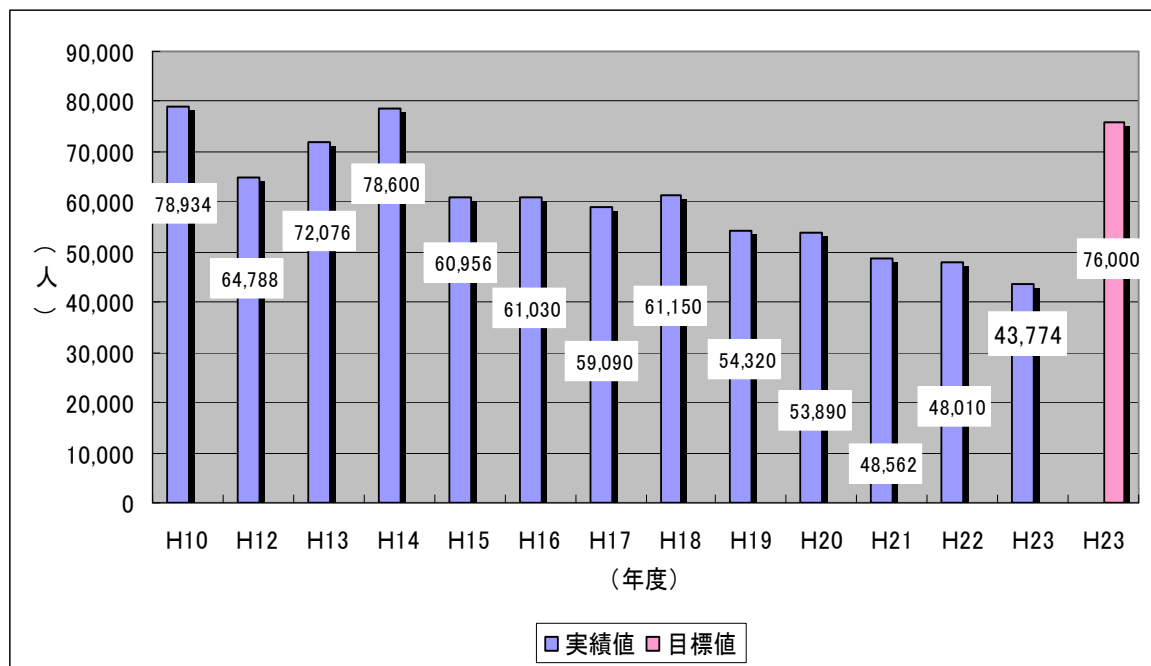
目標1 多くの市民が賑わう中心市街地(街の楽しみづくり)

指標	最新値 (H23年)	目標数値 (H23年)
中心市街地の歩行者通行量 (6月調査)	43,774人	76,000人

<目標の達成状況>

「計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。」

区分	H17 基準値	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H23 目標値
中心市街地の歩行者通行量 (人/日)	59,090	61,150	54,320	53,890	48,562	48,010	43,774	76,000



【総括】

○ 平成23年の平日における一日あたりの歩行者通行量は、平成17年基準値59,090人との比較で15,316人減、前年比4,236人減の43,774人となっており、目標値である76,000人には及ばなかった。

○ 主な要因としては、古川市場周辺及びアオモリクロスタワー「ア・ベイ」周辺など、新たな観光拠点の整備効果によって歩行者通行量が増加している地点がある一方で、ウォーターフロント地区のにぎわいが中心市街地全体へ波及していないことが挙げられる。

○ 今後は、東西市街地のアクセス性の向上、交通結節点機能の強化、都市機能の強化、駅・商店街・ウォーターフロントの一体的な魅力向上など、交流機能の強化や東西回遊性の向上のほか、ウォーターフロント地区から中心市街地全体への一層の回遊性の向上への対策が必要である。

目標2 多くの観光客を集客する中心市街地(交流街づくり)

指標	最新値 (H23年)	目標数値 (H23年)
年間観光施設入込客数 (暦年調査)	1,108,351人	1,305,000人

<目標の達成状況>

「計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。」

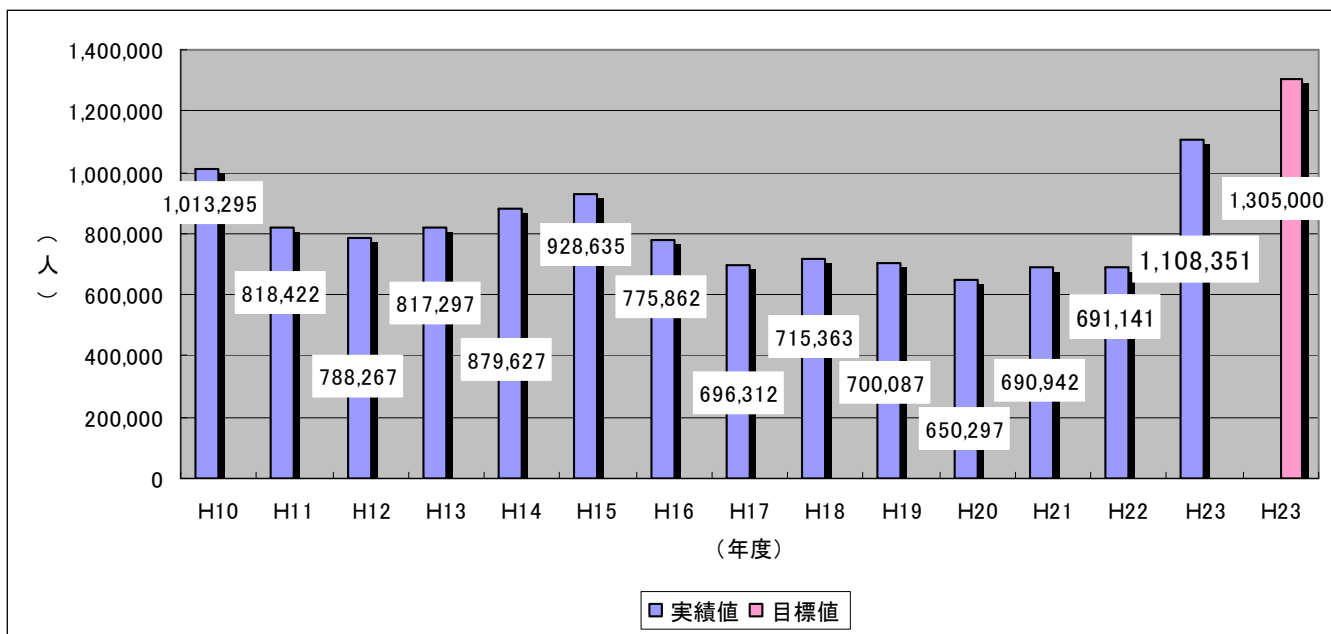
区分	H17 基準値	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H23 目標値
年間観光施設 入込客数(人)	696,312	715,363	700,087	650,297	690,942	691,141	1,108,351	1,305,000

【総括】

○ 平成23年の中心市街地の年間観光施設入込客数は、平成17年基準値696,312人との比較で412,039人増、前年比417,210人増の1,108,351人と大幅に増加したものの、目標値である1,305,000人にはわずかに及ばなかった。

○ 主な要因としては、東日本大震災の影響により、3月、4月の入込客数が大幅に減少したことが挙げられる。

○ 今後は、青森駅周辺からウォーターフロント地区をつなぐ新たな拠点整備に併せ、既存ストックを活用することにより、青森駅周辺地区からウォーターフロント地区や、商店街への回遊性の向上を図るとともに、広い世代が利用・交流できる環境整備や来街動機の喚起を行う必要がある。



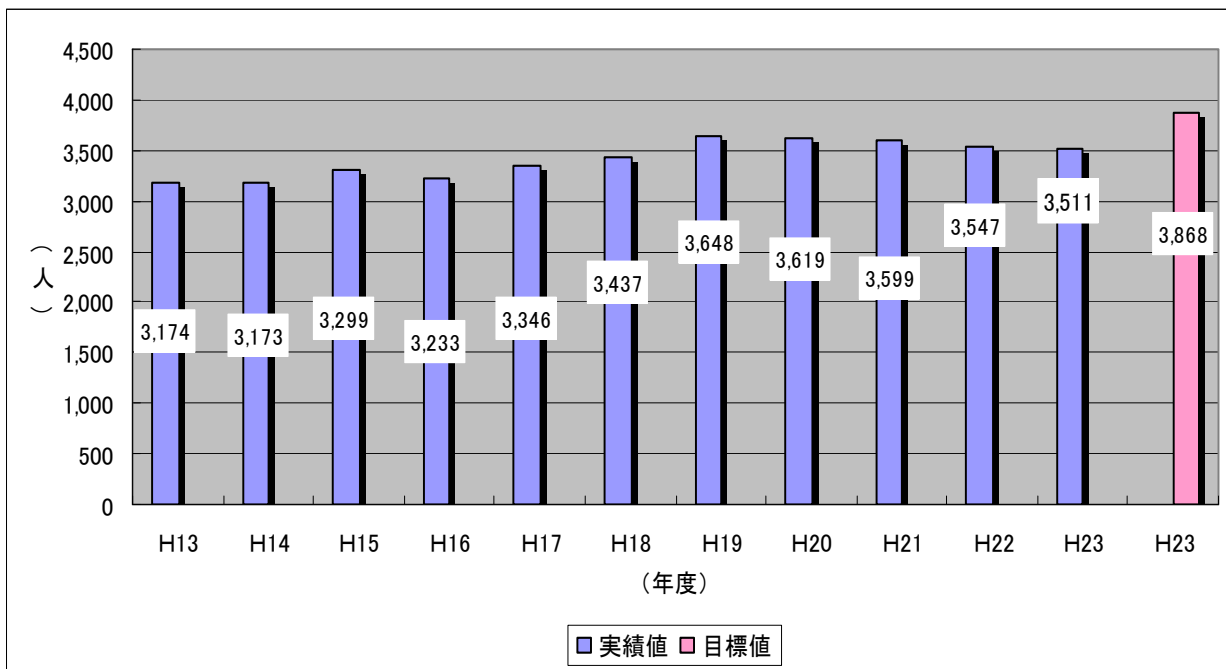
目標3 歩いて暮らしやすい中心市街地(街ぐらし)

指標	最新値 (H23年)	目標数値 (H23年)
中心市街地夜間人口	3,511人	3,868人

<目標の達成状況>

「計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。」

区分	H17 基準値	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H23 目標値
中心市街地 夜間人口(人)	3,346	3,437	3,648	3,619	3,599	3,547	3,511	3,868



【総括】

- 平成23年の中心市街地夜間人口は、平成17年基準値3,346人との比較で165人増、前年比36人減の3,511人となっており、目標値である3,868人には及ばなかった。
- 主な要因としては、民間開発によるマンション建設が景気低迷を背景に進まなかったこと、高齢者の住み替え支援の実績があがらなかったことが挙げられる。
- 今後は、郊外から中心市街地への住み替えや、中心市街地における住宅情報の市民等への提供・周知を図るほか、住み替えのニーズなどの実態把握に努め、官民連携のもと、より効果的な施策展開に向けた検討が必要である。

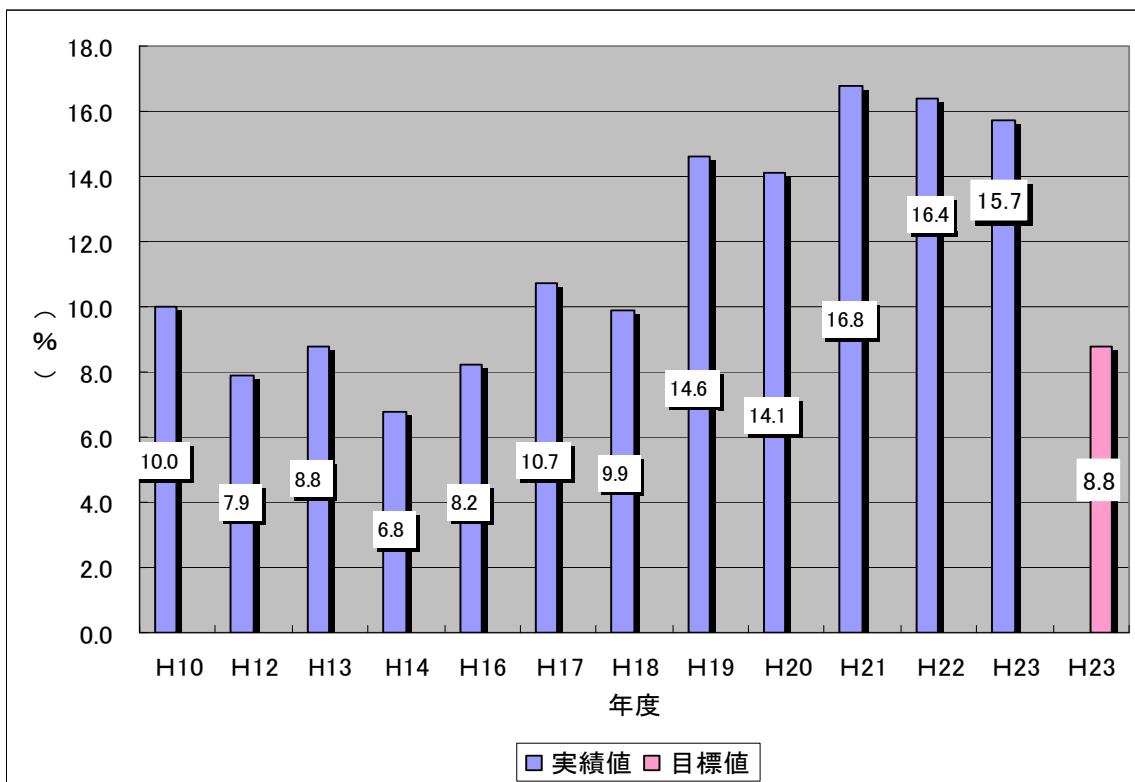
目標4 中心市街地の商業の活性化(指標① 空き地・空き店舗率)

指標	最新値 (H23年)	目標数値 (H23年)
空き地・空き店舗率	15.7%	8.8%

<目標の達成状況>

「計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。」

区分	H17 基準値	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H23 目標値
空き地・空き店舗率 (%)	10.7	9.9	14.6	14.1	16.8	16.4	15.7	8.8



【総括】

- 平成23年の空き地・空き店舗率は、平成17年基準値10.7%との比較で5ポイントの悪化、前年比0.7ポイント良化の15.7%と前年よりは改善したものの、目標値である8.8%には及ばなかった。
- 主な要因としては、空き店舗の老朽化、権利者の高齢化による後継者問題、空き店舗の高い家賃設定などが挙げられる。
- 今後は、既存の空き地・空き店舗対策に加え、空き地・空き店舗の所有者と借受側とのニーズのミスマッチ解消や、歩行者通行量が減少するとともに、空き地・空き店舗率が悪化している商店街への早急な対策が必要である。

目標4 中心市街地の商業の活性化(指標② 中心市街地小売業年間商品販売額)

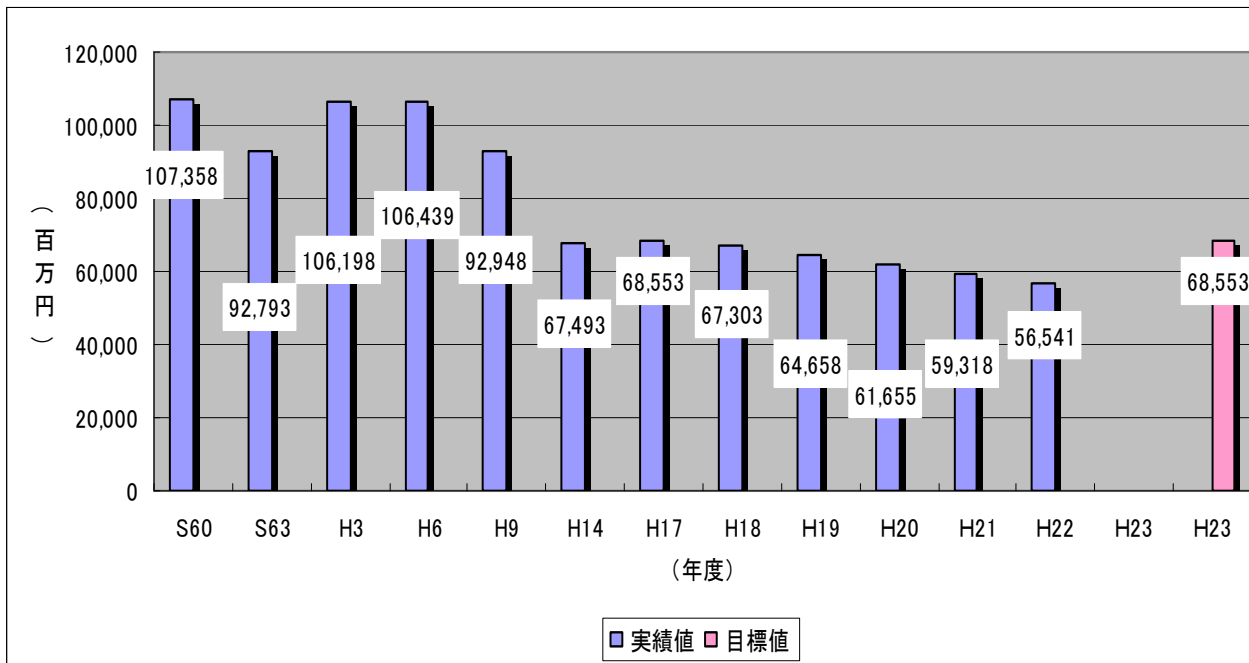
指標	最新値 (H22年)	目標数値 (H23年)
中心市街地小売業年間商品販売額 (百万円)	56,541	68,553

<目標の達成状況>

「計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。」

区分	H17 基準値	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H23 目標値
中心市街地小売業 年間商品販売額 (百万円)	68,553	67,303	64,658	61,655	59,318	56,541	-	68,553

※H23については未確定



【総括】

○ 平成23年の中心市街地小売業年間商品販売額(最新値)は、平成17年基準値68,553百万円との比較で12,012百万円減、前年比2,777百万円減の56,541百万円で、目標値である68,553百万円には及ばなかった。

○ 主な要因としては、長引く地域経済の低迷を背景に、依然として、中心市街地も厳しい状況にあったことが挙げられる。

○ 今後は、商店街独自の特徴あるおもてなしの提供や、市のみならず、全県の食や文化といった地域資源・青森らしさの提供、集客力あるイベントの開催による来街動機の喚起のほか、駐車場やアーケード機能の再検討といったハード面の充実と併せて、ボランティアガイドや情報発信などソフト面における受入体制の整備等を進め、中心市街地における来街環境及び商店街の魅力・集客力の向上を図る必要がある。